

福祉文化通信

～well-beingへの道～

2007.8.1 vol.60



〔編集委員〕
安倍 大輔
長岡 晃二
馬場 清子
山中 芽子

TEL&FAX 048(878)3793 ホームページアドレス <http://www.fukushibunka.jp/> メールアドレス jmukyoku@fukushibunka.jp

事業活動報告

第8回中四国ブロック大会



（左）シンポジウム「共生
（中）のど歌の、地域の絆の
（右）シンポジウム「共生
の絆」



アトラクション
歌田舞「誰かとの
ほど大団円になるわ」



去る3月4日

（日）、広島県福山市立女子短期大学を会場に、

第8回中四国ブロック大会が開

催されました。

した。

その他各地域でもさまざまな活動が展開されています。

北海道ブロックでは今年11月の大会に向けて、実行委員会が組織され、すでに大会内容が固まってきました。是非11月には、北海道にお越しいただき、大会を盛り上げていただければと思います。東北ブロックでは、5月26日（日）に小規模多機能型地域ケアホームの見学を兼ねた、現場セミナーが開催され、また11月の地域福祉フォーラムに向けて準備が進められています。北陸ブロックでは「越後地域福祉文化塾」が4月に開催されたほか（次回は8月予定）、8月19日（日）に「昨年の大会

の時に訪問した山古志地区仮設住宅において交流会を行う予定です。関東ブロックでは、今年度は神奈川県でブロック大会を計画しています。中部東海ブロックでは、8月27日（月）に福祉教育をテーマとした研究集会の開催が予定されているほか、定例研究会を岐阜県内でスタートさせる予定です。関西ブロックでは、いきいきエイジングセンターを拠点に定例会を行って

日訴訟から50年」が、5月には「筆あそび教室を通じた書の社会化」が開催されました（今後

も継続予定）。九州では11月の熊本での地方ブロック大会の概要が固まり、その他長崎純心大学を中心とした「福祉文化学ゼミ」もスタートに向けて準備が進められています。沖縄ブロックでも、毎月行われている月例会に加えて、福祉文化講演会、みんなの音楽会への参加等が、

「沖縄福祉文化を考える会」を中心に企画されています。

各ブロックの活動は、学会ホームページに載せていきますので、是非ともホームページをご覧ください。ご参加下さいますようお願いします。

大会テーマは「共生・協働のまちづくりと福祉文化」。基調講演では中川雄一郎さん（明治大学）がイギリスでの地域コミュニティ再生の試みを紹介しながら、福祉文化を基軸としたまちづくりについて話してくださいました。その他、アトラクション、ワークショップ、分科会、シンポジウムと盛りだくさんの内容で、「誰かが出番がある福祉の創造」に向けて討議されま

ました。北海道にお越しいただき、大会を盛り上げていただければと思います。東北ブロックでは、5月26日（日）に小規模多機能型地域ケアホームの見学を兼ねた、現場セミナーが開催され、また11月の地域福祉フォーラムに向けて準備が進められています。北陸ブロックでは「越後地域福祉文化塾」が4月に開催されたほか（次回は8月予定）、8月19日（日）に「昨年の大会

の時に訪問した山古志地区仮設住宅において交流会を行う予定です。関東ブロックでは、今年度は神奈川県でブロック大会を計画しています。中部東海ブロックでは、8月27日（月）に福祉教育をテーマとした研究集会の開催が予定されているほか、定例研究会を岐阜県内でスタートさせる予定です。関西ブロックでは、いきいきエイジングセンターを拠点に定例会を行って

日訴訟から50年」が、5月には「筆あそび教室を通じた書の社会化」が開催されました（今後

福祉文化人インタビュー

金井直子さん

(同志学院大学専任講師)



Q. まずは今までの実践・研究についてお尋ねいたします。

A. 四半世紀近く高齢者福祉の現場に関わり、汗をかいてきました。

Q. 初めて福祉従事者となられたのは老人ホームででしょうか。

A. 養護老人ホームでした。そこでの利用者からの学びは、私の高齢者福祉の原点です。

Q. 多くの利用者と接してこられた訳ですね。

A. 今でも利用者一人ひとりの様々な関わりを回顧することがあります。今思うと、ある時は寛いであり、ある時は支えられ、ソーシャルワークなんていえるものではないけれども、そこには泥くさい人間のかかわり

があったように思います。

Q. 様々な学びや経験があったのですか。

A. まあ私自身も若くてわからないことが多く、利用者には迷惑をかけていたと思いますが、そこにはクライアントとしての利用者ではなく、生活者としての双方関係性が確かにあったのです。

Q. その経験と今の研究との関係についてお尋ねします。

A. 関東学院大学大学院の指導教授であった萩原清子先生から「金井さんは現場に役にたつ研究をすること」という教育を受け、「福祉経営における人材育成」をテーマに研究している、と言いたいところですが、まだ研究もどきの状況です。

Q. どのような課題に注目されているのでしょうか。

A. 今もOJTを中心に人材育成を行っている施設が多いですが、私は職場環境の大切さを訴えたいですね。まず職員一人一人を大切に、伸ばしていける組織風土をつくること。そのためには職員同士が支えあい学び

あう「同僚性」や「管理者のリーダーシップ」が育まれなければなりません。特に福祉経営においては経営に長けている管理者だけではなく、留岡幸助や石井十次のような社会事業家の精神がなくてはならないでしょう。

Q. 確かに、人材育成がいつまでも「育てる人・育てられる人」の関係ではいけませんね。

A. メルトン・メイヤロフが言う「ケア」の関係に通じる本質的な課題ではないかと思えます。そこを明確にしないと、経営側主体になってしまいます。福祉経営も企業経営も同一化されていく中で、その肝心な課題にメスを入れたいですね。

Q. 研究方法としては、どのようなお考えでしょうか。

A. 石井十次や留岡幸助などの社会事業家の実践を福祉経営の視点からとらえ、それが現代の福祉経営の補着点であることを証明したいと思えます。

Q. 福祉文化も福祉経営も歴史から学ぶ視点は重要ですね。

A. 「社会福祉基礎構造改革」も

今までの歴史の上にその改革があるということをお忘れではないでしょうか。

Q. 学会にはどのような活動を期待されていますか。

A. 各ブロックの活動に市民もまきこみ、活発化していくことも大切なのかなあと思っています。そのためにも、まず自身が学会活動に参加しなくてはなりません。それとともに現場実践されている多くの方が抱えている問題などをテーマとしてとりあげ、意見交換できるようにしたいですね。研究者と実践者の意見交換を通して「福祉文化」を考えたいと思えます。

Q. 特に神奈川での活動は期待していますので宜しくお願ひします。

この「福祉文化人インタビュー」のコーナーでは、全国各地で福祉文化実践に取り組みされている会員の方々を紹介しています。このコーナーで取り上げてほしい方がいらっしゃいましたら、学会事務局までご連絡下さい。白紙・他業を問いません。

日本福祉文化学会第18回全国大会
北海道大会研究発表の募集について

来る11月18日(日)、北海道大会において、例年通り研究発表を行います。会場は札幌市の北翔大学北方閣学西情報センター「ポルト」です。

募集等の詳細は、別紙募集要項あるいは学会ホームページをご覧ください。ご応募下さい。

「福祉文化研究」第17号
投稿原稿の募集について

学会の研究誌であります「福祉文化研究」第17号の投稿原稿を募集しております。締め切りは07年8月31日(当日消印有効)です。詳細は「福祉文化研究」第16号資料編及び学会ホームページをご覧ください。多数の応募をお待ちしております。

「福祉文化実践報告集」第3号
原稿募集について

福祉文化実践報告集掲載の原稿も募集中です。こちらは締め切りが10月31日となっております。投稿規定については「福祉文化研究」第16号資料編及び学会ホームページをご覧ください。多数の応募をお待ちしております。

日本福祉文化学会第18回全国大会北海道大会の開催について

11月17日(土)～18日(日)

に北翔大学(江別市)及び北翔大学北方圏学術情報センター「ポルト」(札幌市)において、全国大会が開催されます。

学会発足以来初めて津軽海峡を越えて行われるこの大会テーマは

「福祉の再生と未来を語ろう―地域・関わり・環境の持つ力から福祉文化を考へよう―」です。

北海道開拓記念館のオブシヨナルツアーから始まるこの大会は、第1日目に前沢政次氏による記念講演、恒例となりました「福祉文化交流分科会」、懇親会

が行われます。

第2日目は総会、研究発表に引き続き、浦河べてるの家の方々による特別講演「私たちの経済活動(仮題)」、シンポジウム「福祉の町づくりの未来(仮題)」が予定されています。

福祉の切り捨てが進行する中、今こそ福祉文化の力量が問われている時代はありません。この北海道の地で、福祉と再生を巡る議論をしながら、地域で行われている多様な福祉文化の試みを学び、明るい未来を創造できる元気をもらいましょう。

福祉づくりワークショップはどんなものか?

…遊びとレクリエーションの境を問う

園田碩哉(実践ロジカル)

社会保障審議会福祉部会で進められてきた「介護福祉士制度の見直し」案が昨春秋に発表された。従来の介護福祉士養成カリキュラムは、基礎科目120時間に加えて専門科目が17科目1530時間、合計1650時間だった。それが新課程では合計1800時間に拡充されるのだが、科目としての「レクリエーション活動援助法」は姿を消す。新課程では細分化されてい

た旧科目を統合して「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3類に整理した上で16科目を指定している。それらは「人間の尊厳と自立」という原論から介護を巡る制度論や技術論、介護実習、認知症や障害の理解など、現場の課題に焦点を当てており、特に人間関係とコミュニケーションの理論と技術を大きく前に出しているところが特徴的である。

こうした整理はそれなりに理解できるのだが、問題はその中身である。教育内容のイメージを見ると、何百とあげられた項目にレクリエーションのレの字もない。わずかに「介護概論」の「対象の理解」の1項目に「習慣や趣味・嗜好、余暇活動」があるのと「生活援助技術」の「自立に向けた移動の介護」の中に「意欲を引き出す工夫(ニーズの発掘、生活リズムと生活習慣、余暇活動)」とあって、「余暇」が2つばかり登場するだけである。期待の「コミュニケーション技術」は、介護場面での対応、言葉や身振りの理解という技術論で、従来、レク援助が強調してきた遊びを介した人間

交流というような視点は含まれていない。新機軸の「こころとからだのしくみ」にしても、内容のイメージは心理学のエッセンスとストレス論、あとは衣食住と口腔ケア、排せつと睡眠というわけで「遊びやレクリエーション」は顧慮されていない。基本的な考え方が医療と看護に傾斜し、生活の楽しみや生きがい援助という発想はあきらかに後退したといわざるを得ない。とは言え、現場では「遊びやレクリエーション」の存在価値はますます大きくなってきている。有り余る自由な時間をどう

やって「意味ある時間」にしていくかということ、高齢者にとっても障害者にとっても、福祉サービスの根幹に関わる課題である。残念ながら、われわれレク・ワーカーたちは、レクリエーションの福祉文化的な意味と価値を現場に定着させる努力が十分ではなかったと言わざるを得ない。事業をどう捉え、レクリエーションと介護の関わりを理論的にも実践的にもどう豊かにしていくか、数年前から活動している「遊びとレクリエーション部会」に突きつけられた問いは大きく深いものがある。

そこで、遊びレク部会のメンバーに呼びかけて、この4月から「福祉とレク再検討プロジェクト」を立ち上げ、東京・水道橋の日本レク協会の会議室をお借りして、ささやかながら勉強会を始めた。検討していきたい課題は5つに整理することができた。

的・精神的・霊的・社会的効果を示すために、レクによる介護予防効果の立証研究や福祉レクの経済的効果の算定を試みる。

3 福祉現場でのレクリエーション・サービスのシステムの確立

レクリエーション・サービスの現状調査を踏まえ、レクサービスの有料化、事業化の検討を行うとともに、全国規模の新たなレク・ボランティア運動の展開策を探る。

4 福祉レクリエーション・プログラムの開発

レク・プログラムの発想を拡大し、セラピー・テイック・レクリエーションを日本の風土にどう根づかせるかを考え、他方、多彩な「療法」型活動との連携を模索する。

5 レクリエーション専門職の確立

レクの専門性を支える理論体系を整理し、他の福祉・医療関連専門職との差別化と棲み分けを検討しつつ、資格制度についても現状の見直しと新たな方向を考える。

*部会に興味をお持ちの方は左記へメールをください。

福祉レク検討プロジェクト事務局・杉浦史晃

notimaki@mx10.ttcname.jp

2 レクリエーションの存在価値 エビデンスの追求

レクリエーションの身体

インフォメーション

「第6回東北アジア福祉文化国際セミナーin大連」の中止について

07年度事業計画に盛り込まれておりました中国・大連市での国際セミナーについては、諸般の事情により、今年度は中止することになりました。今後は、「国際交流のあり方検討委員会」における討議をまっつて、対応していくこといたします。

国際交流のあり方検討委員会の設置について

6月3日に行われました07年度第1回理事會において、右記状況もふまえながら、今後の国際交流のあり方について検討する委員会を設置することが決まりました。1996年の韓国での国際会議の開催を皮切りに、日本、中国、モンゴルと場所を移して、計5回行われてきた今までの国際交流の成果をふまえながら、今後の国際交流の方向性について検討していきたいと思

ます。委員は以下の方々です。

加藤美枝・坂本道子
多田千尋・馬場清
日比野正己

「福祉文化実践報告集第2号」の刊行について

各方面に大変ご迷惑をおかけしましたが、「福祉文化実践報告集第2号」は、先日発行のはこびとなりました。刊行が大変遅くなってしまいましたことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

「2006年度年次報告」の刊行について

こちらも大変遅くなりましたが、まもなく刊行予定となりました。各プロックごとの事業報告等が掲載されておりますので、是非ご覧いただけます。と思

「第17回日本福祉文化学会」さいたま大会報告集」の刊行について

先日会員の方々にはお送りしましたが、昨年度のさいたま大会の報告集ができあがりました。1日目に開催され

したシンポジウム、2日目の福祉文化フェスティバル、記念講演について掲載されておりますので、是非ともお読みいただければと思います。

今後の学会運営について

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、昨年末以来、一番ヶ瀬会長が体調を崩され、学会運営に実質的に関われな

い状態が続いております。理事会でも3月、6月と対応を協議してまいりました結果、来年度の役員改選時期までは、会長代行を副会長にお願いし、現体制のまま学会運

営をしていきたいと考えております。なお会長は、順調に回復されているとのことですので、ご安心下さい。

新潟県中越沖地震のお見舞い

ご存じの通り、7月16日、またしても新潟県を中心に大きな地震がありました。

本学会では、4年前に阪神淡路大震災復興10年を期に神戸で、3年前に新潟中越地震の地、長岡でそれぞれ大会を開催し、震災あるいは復興と福祉文化をテーマに議論をしてまいりました。

事務局が把握している範囲

では、新潟県在住の会員の方々は皆さんご無事で、現在は救援活動、復興活動に取り組まれているようです。新潟県は福祉文化学会にとってもひとつの大きな拠点であり、学会として今後どのような支援ができるのか、現地とも連絡を取りながら考えていきたいと思

いは思います。

会費納入のお知らせ

学会活動は会員の皆様によって支えられています。年会費をまだ納入されていない方は、学会口座までお振込み下さい。よう、よろしくお願致します。

新学会員 (6月30日現在)

〈個人会員〉

- ・遠藤知恵子 北翔大学
- ・菅原真枝 東北学院大学教養学部
- ・近谷光美 真面目学福祉保育専門学校 介護福祉科
- ・高橋英樹 新潟大学歯学部口腔生命科学福祉学科
- ・中川雄一郎 明治大学政経学部
- ・岩浦孝信 宮崎市役所
- ・城前谷 賢一 茨城県社会福祉協議会
- ・守本 友美 皇學館大学社会福祉学部
- ・南野 勇次 山二総合保全株式会社
- ・八巻 貴博 北翔大学 人間福祉学部介護福祉学科
- ・藤森 雄介 新潟大学 国際コミュニケーション学部
- ・多賀 直世 山口福祉文化大学 ライフデザイン学部
- ・新沼 英明 山形短期大学 講師
- ・小田嶋 政子 北翔大学
- ・松本 鏡子 大阪人間科学大学 社会福祉学科
- ・松田 美智子 北翔大学
- ・黒澤 直子 関西福祉大学
- ・大津 寿寿子 長崎純心大学
- ・荒木 美智雄 社会福祉法人 あすはの会 福祉学属
- ・赤岩 やすひろ
- ・佐藤 博紀

〈学生会員〉

- ・川端里香 北翔大学大学院人間福祉学専攻科
- ・小森 聖紀子 昭和女子大学 生活機構研究科博士後期課程
- ・山口 あすさ 北翔大学 大学院
- ・香月 保子 長崎純心大学 大学院
- ・宮野 澄男 長崎純心大学 大学院
- ・呉 風華 長崎純心大学 大学院

〈団体会員〉

- ・社会福祉法人 幸福会
- ・特定非営利活動法人 日本福祉文化センター